

公開審査形骸化の危機

小森 星児（復興塾塾長） <komori@kobe-yamate.ac.jp>

先日、総額 2,600 万円に及ぶ「パートナーシップ活動助成」の公開審査を見学した。プレゼン件数は 105 件、これを 5 人の審査員が 2 日間 14 時間かけて採点する仕組みで、僅か 3 分間で提案趣旨を説明するのも大変だが、これほど広い分野を的確に評価するのは奇跡に近い。しかし、プレゼンに傍聴を認め、合計得点を発表するだけで公開といえるのだろうか。スポーツにも似た仕組みがあるが、そこでは厳密な基準に基づき高度に訓練された専門家が採点し、偏りを除くため上下をカットする。それでも観客の監視は鋭く、ブーイングの洗礼を覚悟しなければならない。

音楽、美術、文学、科学、グルメなどの世界でも、審査会が受賞者を決めることがある。この場合、価値観を異なる専門家がそれぞれ自分の判断を主張し、納得するまで議論が続く。その過程で、新しい価値が見出され、審査基準が書き換えられていく。

さて、上記の例は作品やパフォーマンスが目の前にある場合であり、計画段階での評価に適しているとは限らない。計画段階で公開審査が実施される建築コンペでは、図面や模型をもとに審査するので完成時とのずれは最小限に抑えている。

震災後、NPO 助成のために公開審査を始めたのは HAR 基金であった。ここでは審査員の真剣なやり取りが公開され、時には会場からの発言もあって、問題の所在や評価について共通理解が生まれた。しみん基金 KOBE の場合は、審査員の事前訪問の結果も加味され、密度の高い公開審査が実現している。

今回の公開審査では、項目別配点が示されただけで、採点基準も審査員ごとの採点も公表されなかった。分野も方法も助成金額もまったく異なる提案が審査員相互の議論ひとつなしに淡々と処理されていく姿は不気味で、個性無視で悪名高い

偏差値入試を連想させる。NPO であれば、まずミッションとの整合性が問われるべきなのに、公益性という外部基準が導入されるのは何故か。成功報酬を払う条件で指導を受けた案と、それだけの余裕のない団体の案を見分けることができるのか。プログラムオフィサー不在で大丈夫なのか、事業成果の評価はだれがするのか。こうした疑問は、結局、公開審査における審査会の説明責任が果たされていないことに由来する。

それでは、どうすれば改善できるか。まず、個別採点を公表して、提案者にも審査結果を評価する機会を与える。提案者に特に評価して欲しい項目（先駆性、費用便益性、波及効果など）を申告させ、その得点を 3 倍する。減点主義でなく、加点主義で評価する。審査員を専門家グループと公募グループに分け、それぞれの得点上位を採択する、などの手段が思い浮かぶが、所詮小手先の改善という批判を免れない。

助成総額では同規模の「かながわボランティア活動推進基金 21」は数百頁の審査会議事録を HP 上で公開し、またアリスセンターが詳細なレポートを『たあとる通信』第 4 号で特集している。なぜ著名な幹事 2 人が辞任したのか、NPO をはじめ関係者が助成のあり方をめぐっていかに真剣に討議しているかが生々しく伝わる。と同時に、われわれの甘さを痛感せざるをえない。

それにしても、100 組以上の市民がパートナーシップを求めて応募したのに、提案に耳を傾ける行政側の幹部や議員の姿がなかったのはどうしたことか。パートナーとは夫婦のようなもので、相互の尊敬と、足りないところを助け合う精神が必要だ。パートナーの一方が顔を見せないとは、欧米の都市であれば間違いなくスキャンダルである。参加した市民は、この縁組の先行きを案じて憂うべきではなかったか。

現在進行中の企画

4都市TV会議「草の根NPOの挑戦:シアトル発日本着 まちづくりの思想」

10月19日に、シアトル・世田谷・津、そして神戸の4都市を結んだ、国際テレビ会議が開かれます。テーマは表題の通りですが、より具体的な内容としては、「コミュニティ・ビルディングとしてのまちづくりにおける、行政とNPOの関係を考える」ことが主眼となっています。昨年の「市民サミット2001」での、三重県津市のボランティア連絡協議会会長・萩野茂樹さんとの出会いを出発点に、駒沢大学の西村祐子助教授さんらとの交流において、今回の会議が、駒沢大学創立120周年記念イベントとして企画されることになりました。西村祐子さんはシアトルのワシントン大学の研究者の方々と、共同で草の根NPOの日米比較に関する共同研究を行っておられ、その一環としても位置づけられています。シアトル市ネイバーフッド課前ディレクターのジム・ディアスさん、ワシントン大学ソーシャルワーク学部准教授のスー・ソンさん、同大学コミュニティ医療スクールディレクターのアロン・カッツさんらが、すでに3月に来神して事前見学をされてお

り、その際、神戸まちづくり研究所を中心としたメンバーとの懇親会を行っております。

当日は午前10時から午後3時30分ごろまで、人と防災未来センターの研究室で開催、プログラムは昼食を挟んで、2部に分かれています。午前中の第1部は、これまでの西村さんの取材をもとにしたビデオにより、各地の草の根NPOや、その行政との関係などが報告され、各自治体の長を含んだメンバーにより、意見交換が行われます。午後からの第2部では、各都市でのNPOの現状を当事者が報告、相互に意見交換を行うことになっています。

当日の会議の議論やその成果はもちろんですが、これを起点に、各都市のNPOや研究者、行政担当者の継続的なネットワークを形成してゆくことが重要ではないかと思われます。皆さまのご協力をお願いします。

松原永季(スタジオ・カタリスト)<ekky@kh.rim.or.jp>

■■■ 復興クルーズ 2003 ■■■ (2003年8月7日~8月19日)

来る2003年は、震災を体験した神戸・天津両都市の、友好都市締結30周年にあたります。この機会に、二都市の友好親善と経験交流が深まることを期待して、神戸復興塾は「復興クルーズ2003」を実施します。

1976年7月、242,700人の死者という20世紀最大の被害を出した唐山大震災を経験した唐山市民と天津市民、とりわけ町の壊滅を経験した唐山の人々は、新しい町づくりに立ち上がってすでに一世代を経て、次の世代にその経験が語り継がうとしています。

塾生と唐山・天津の人々との間には、かねてより研究教育を通じてのつながりがあります。塾生である石東直子さんは、天津大学建築学部の客員講師で、天津大学とは交流が深く、また、同じく塾生の室崎益輝神戸工学部大学教授は、2002年3月2日に河北省地震工程研究中心の蘇幼坡教授を神戸に招き「室崎研究室25周年 第50回MURオープンゼミナール」において唐山大震災の復興についてのセミナーを開催しました。このような塾生の日頃の

活躍の輪が広がり、天津での交流は、天津大学建築学院院長張教授に、唐山は、蘇幼坡主任教授にお願いして計画をすすめるようとしています。10月には、石東直子さんが、現地に赴き、現地での交流の打ち合わせにあたります。

また、神戸・天津間とをつなぐフェリー「燕京号」を運営するチャイナエクスプレスライン株式会社は、復興クルーズ2003の実現に向けて最大限の協力を申し出ています。

神戸復興塾は、NPOの中間支援組織として、あるいはNPOのインキュベータとしての役割を微力ながら果たしてきました。この復興クルーズにおいても、神戸復興塾が事務局として企画を進めることで、多くの人々が参加する交流の場を生み出すことができると期待しています。神戸の様々なコミュニティで活躍するNPO、ボランティアグループに呼びかけ、ともに議論し、復興クルーズが有意義な内実をもつように、出航までの準備を進めたいと考えています。

山田和生((株)マイチケット)<info@myticket.jp>

日米コミュニティ・エクスチェンジ

■ハイジ・ブリーズさん神戸へ

今回の受け入れは日米コミュニティエクスチェンジ (JUCEE) PATHFINDING OPPORTUNITY PROGRAM によるものです。これは、日本の地域における社会問題や市民の取り組みをフェローに紹介し、市民・草の根レベルでの継続的な日米協力関係を築いていくことを目的としています。

神戸まちづくり研究所として受け入れを表明し、フェローのリストとともにマッチングが始まりましたが、13年ぶりの神戸にどうしても来たかったハイジさんと姉妹都市でもあるシアトルのまちづくりについて知りたいという我々の思いが一致し、相思相愛の形で彼女の受け入れが決まりました。



ハイジさんといろんな場面で意見交換をして判ったことは、社会背景や文化背景の違いはあっても NPO のコーディネーターとして基本的な姿勢の部分では、私達が持っている「志（こころざし）」とほとんど変わらないというのが実感でした。

これは、エクスチェンジですから次は、まち研から誰かがシアトルに出かける番です。来年は、ワシントン州と兵庫県の姉妹提携 40 周年でもあります。まち研としても、何か新たなプロジェクトを提案したいところですが、いかがでしょう？

□ハイジ・ブリーズ・ハリスさんのプロフィール

ハイジさんは、アーティストであるとともに都市デザイナーでもあり、社会事業家でもあります。2 年前まで「ポマグラニット・センター」という NPO でアソシエート・ディレクターとして活動していました。両親も国境無き医師団や都市デザインで活動されており、お母さんが愛読した「アルプスの少女」から名付けられたと聞いています。13 年前も大学の論文を書くため 8 ヶ月神戸に住んだ経験があります。

野崎隆一<VZD07604@nifty.ne.jp>

おむすび ほっかほか訪問 ラジオ番組づくりに協力 A M K に 生 き る 塾 の 知 恵

私の勤める AM 神戸・ラジオ関西は、この春から復興住宅でくらす方々が元気を取り戻すことを願って、「おむすび ほっかほか訪問」という番組を続けている。実はこの番組は神戸復興塾の皆さんの経験と知恵がたっぷり盛り込まれているのだ。

「おむすび ほっかほか訪問」は、毎週月曜から金曜までの 5 日間、「早起きサラダ情報局」という生情報ワイド番組の中で、午前 6 時 32 分ごろからスタートする。番組は阪神・淡路大震災復興基金の提供。

復興住宅に住んでいる人で、どうしても閉じこもりがちになったり、近所の人との付き合いが苦手な人もいる。こんな引きこもりがちの人が他人と付き合い合うきっかけになるような番組をつくるのが基本のコンセプトだ。

どんな番組にすべきかを考えた。まず復興住宅内の集会所で行われているカラオケや手芸などのグループやふれあい喫茶での語り合い、といった楽しい活動の姿を伝えていこうと考えた。

とはいっても、私たちのような小さなラジオ局は取材陣も少なく、蓄積も薄い。そこで“恥ずかしながら”と復興塾に情報の提供と番組についてのアドバイスをお願いすることとなったのだ。

9 月末で半年が終わるが、文字通り復興塾の皆さんの手取り足取りの助言で出来上がっている。取材先のさまざまな事例やキーパーソンの紹介など、きめ細かな情報の提供をいただいている。

番組を聴いていて感じるのは、何といっても女性の元気さと、男性の影の薄さだ。特に女性ばかり取材しているのではないが、なかなか男性が率先して活動の世話をしていたり、おしゃべりの中心にいる姿が見つけられないというのがスタッフの悩みのようだ。

10 月以降、さらにリスナーとの双方向が生きる番組としていきたいので、塾の皆さんのいっそうの応援をお願いしたい。

山口一史<VEN15142@nifty.com>

修学旅行プロジェクトの新展開

修学旅行プロジェクトを 2001 年、2002 年、展開してきた。

しかし、

- 1) 他の学校に広げる広報力に劣っていた
- 2) 地元のひとつである新長田が「震災復興」よりも「新しい商店街」をめざしたいと考え、子供たちに感動を与えた、西神戸センター街の曲がった「震災アーケード」を撤去した。

こうした状況のなかで、むしろ阪神・神戸市全体での、さまざまな研修受け入れ制度を展開したいと考ええるようになった。

具体的には

- ①神戸方面に対する、市内外からの修学旅行・総合的学習・議員研修・自治会婦人会社協研修・企業研修・専門家研修を受け入れる。
- ②人と防災未来センターの半日研修とこの現場研修とを組み合わせたり、市観光課・教育委員会と連携する。
- ③そのため、西に、長田区野田北部のまちづくりと鷹取教会内の NGO (80 人) + まちコミュニケーション (80 人) を開発する。また東を、住吉川清掃・ココ魚崎から甲南オアシス・岡本商店街・多文化保育所・精道小学校・芦屋 17°C のなかでの受け入れ先を研究する。
- ④新長田は、自立的に独自の方向を出そうとしているので、それを妨げないで、連絡を密にする。

という方向にしたい。年間、学校にして 10 件くらいを目標とする。

この計画をすすめていたところ、10~12 月に行われる「人と防災未来センター」の研修プログラムのオプションとして、現地体験交流プログラムを実際に提供できることとなった。同センターの菅研究員のコーディネートによるものである。

こうした動きは、従来の受身型修学旅行から、スキーなど体験型、さらには海外交流修学旅行といった流れの中で、実はそれらより更に新しい体験型修学旅行として注目されるようになっていく。スキーも、海外も家族で行った子どもたちが多い。今や、被災した下町こそ、彼らにとって「命」「暮らし方」に触れる最大の「異文化体験」なのである。

先日、旅行エージェンシーの業界紙である「トラベルジャーナル」(2 万部発行) の巻頭取材を、私はうけた。

災害の体験やそこからの復興の歩みを語る人々と若者が交流するこの修学旅行こそが、今、最も新しい。この期待にこたえられるよう、現地ソフトの開発、連絡を密にし、営業・広報もすすめていきたいと考える。幸い、今年は、重村さんという優秀な専任スタッフを得ることができた。

この新しい試み。もうすこし発展させてみようと思う。

森栗茂一 <morikuri@maia.eonet.ne.jp>

緊急雇用促進事業

生活復興のための NPO 活動支援事業

この事業は、阪神・淡路大震災の被災者の生活復興に資する事業企画を広く NPO 等から公募し、優秀と認められる企画を提案 NPO に委託し実施するもので、国の「緊急地域雇用創出特別交付金」を活用したものです。

研究所として「被災地コミュニティ応援事業」として以下の 3 団体で応募し委託されました。(特)新開地まちづくりエヌピーオー:「500/5000 人が参加するコミュニティ・ホームページづくり事業」(神野さん)、(特)ひょうごセルフヘルプ支援センター:「地域社会に援助のネットワークを構築する事業」(上山さん、上野さん)、(特)神戸まちづくり研究所:「修学旅行誘致による被災地活性化事業」「地域活性化のための吾妻パソコン教室事業」(重村さん)。この

事業で、結局 5 名を雇用しました。

研究所は事務局として、新規雇用者のハローワークへの求人申し込み、労働保険・社会保険手続き、給与計算、税務処理、給与・事業費支払い等の事務を行っています。また、各事業の進捗状況の報告も受け、11 月には中間報告会を開催する予定です。

新規雇用者が各団体で事業展開をすることは、NPO 活動支援という側面では意味のあることです。もう一つの緊急雇用創出事業としての役割は、事業自体が 6 ヶ月の期間限定なので、その後の雇用が課題としてあり、各団体で継続して雇用できる体制を考えていく必要があるでしょう。

まち研事務局(川村) <LET07723@nifty.ne.jp>

活 動 の 記 録

多 摩 N P O セ ン タ ー 交 流 会

■多摩 NPO センター神戸へ

きっかけは、今年 2 月多摩 NPO センターで開催された「第 11 回まちづくり会議」への出席でした。日本建築士会連合会まちづくり委員会の主催で「ストック時代のすまい・まちづくり NPO と建築士～多摩市の廃校利用型 NPO 支援センターで考える」というテーマで開催されました。橋本正晴代表から NPO センター誕生の経緯や活動内容を聞く内に、まち研との共通点の多いことに気づき互いに是非交流しましょうということになりました。

約 10 人の一行は、6 月 19 日に深夜バスやマイカーで早朝神戸に到着しました。午前中は、9 時からコミスタの会議室で「コミスタ神戸」の概要説明と「まち研」の活動内容について説明した後、「コミュニティ・サポートセンター神戸」の中村順子代表からも活動説明をいただきました。午後からは、「市民活動センター神戸 (KEC)」に場所を移し、「しみん基金 KOBE」「ひょうご市民活動協議会」の活動紹介を行いました。翌 20 日は、JR 新長田駅に集合し、区画整理地域を見ながら「プラザ 5」に到着。「まちコミ」の活動紹介と震災後の復興の現状について説明を行いました。

多摩のメンバーは福祉系の団体が中心ではありますが、多摩市が公募した委員が中心となった「まちづくり研究会」の活動から「NPO センター」が生まれたこともあり、まち研とは共通の関心も多く、今後もおつきあいを続けて行きたいと感じました。

野崎隆一<VZD07604@nifty.ne.jp>



多摩 NPO センターNews Letter 8月号 vol.14 より抜粋

第 1 回市民講座バスツアー「神戸に学ぼう NPO」を実施して

2002 年度事業部担当 落合多美子

この講座は NPO の原点といわれる神戸に実際に行ってみようということで企画されました。参加者は 10 人。往復夜行バスという強行軍でしたが、6 月 19、20 日の 2 日間、密度の濃い見学ができ、それぞれに収穫の多い旅だったとのことで、ほっとしています。

1 日目、神戸市生涯学習支援センター「コミスタこうべ」。多摩 NPO センターと同じように廃校を活用した施設ですが、内装や設備は幅広い市民の活動に利用できるようにすっかり手が入られ、学校のイメージはありません。市と NPO 法人が共同で運営し、市の条例で使用料を決めて会議室や調理室、体育館等を貸し出しています。単に貸し室だけでなく、ディサービスセンターや生涯学習の情報コーナー、職人さん（背広、靴等）が技術を教える「ものづくりセンター」などもあり、充実した施設でした。

午後は、NPO 法人「市民活動センター神戸」へ。ここは文字通り、市民のために情報提供、相談、人材育成、講師派遣などを行う民設、民営の支援センターで、スタッフの若さに活気と熱意を感じました。

その後、「ひょうごボランティアプラザ」へ。県が設置し、社協が運営する最新設備の NPO 支援施設。オープンを 3 日後に控えた大忙しのところを快く案内してくださいました。助成金など財政的支援もすると聞いて、一同うらやましいの声。

2 日目は、長田区の震災復興の様子を歩いて見学し、まちの再生活動をしている団体「まち・コミュニケーション」へ。復興共同住宅の 1 階を権利者の方が地域活動の場として提供し、ふれあい喫茶、パソコン教室、学童保育などに利用しています。ここでも、若者がボランティアに近いかたちで地域住民と汗を流していて、とても励まされる思いでした。

今回の講座では、多摩 NPO センターの今後のあり方や NPO 団体の役割等、示唆に富むものが得られ、たいへん有意義でした。お忙しいところを「NPO 法人神戸まちづくり研究所」の事務局長、野崎隆一さんをはじめ、神戸の NPO のみなさん、市の職員の方々にたいへんお世話になり、ありがとうございました。紙面を借りてお礼申し上げます。

神戸まちづくり研究所・神戸復興塾活動記録(2002年5月～10月)

- 5/29 多摩 NPO センター(交流会打ち合わせで来所)
- 6/ 5 ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画委員会④
 - 16 生活復興のための NPO 活動支援事業公開企画コンペ
 - 19 多摩 NPO 交流会
 - 20 多摩 NPO 交流会
 - 24 復興クルーズ打ち合わせ
 - 25 第 13 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
- 7/ 1 ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画委員会⑤
 - 2 「NPO と神戸市の協働研究会」第 12 回世話人会
人と防災未来センターと打ち合わせ
 - 14 まちづくり広域活動助成に関する選定審査会
 - 18 新規雇用者面接(緊急雇用創出事業)
 - 22 日米コミュニティ・エクスチェンジ打ち合わせ
 - 29 第 14 回復興住宅・コミュニティ支援研究会
 - 31 神戸復興塾・神戸まちづくり研究所事務局会議
- 8/ 5 ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画委員会⑥
 - 6 名古屋市教育研究所来所
 - 8 日本財団助成ヒアリング(復興クルーズ)
 - 26 人と防災未来センターと修学旅行打ち合わせ
 - 27 4 都市テレビ会議打ち合わせ
- 9/ 4 ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画委員会⑦
 - 9 「NPO と神戸市の協働研究会」NPO 部会準備会
 - 10 神戸市役所観光課訪問(修学旅行プロジェクト)
 - 13 人と防災未来センター訪問(修学旅行プロジェクト)
 - 14 地域活動推進講座
「とことん知ろうまちづくり①/宮本・吾妻地区」
 - 15 パートナースHIP活動公開企画提案会
 - 17 地域活動推進講座
「とことん知ろうまちづくり②/宮本・吾妻地区」
 - 20 神戸復興塾・神戸まちづくり研究所事務局会議
 - 24 神戸市教育委員会訪問(修学旅行プロジェクト)
長田区訪問(修学旅行プロジェクト)
 - 26 (特)HIV と人権・情報センター来所
吾妻ふれあいのまちづくり協議会広報部長打ち合わせ
復興クルーズ打ち合わせ
神戸市観光課訪問(修学旅行プロジェクト)
 - 30 「NPO と神戸市の協働研究会」NPO 部会準備会
- 10/ 1 (特)中央むつみ会総合施設長来所
ラジオ関西「おむすび ほっかほか訪問」企画委員会⑧
「NPO と神戸市の協働研究会」第 13 回世話人会
 - 4 人と防災未来センター災害対策専門研修へ
震災体験現地交流プログラムを提供開始(～年末)
 - 7 日米コミュニティ・エクスチェンジ Heidi さん来所
 - 11 甲子園大学教授 NPO 設立相談で来所
 - 17 「NPO と神戸市の協働研究会」第 1 回 NPO 部会
吾妻ふれまち協の作品展にパネル展示参加(～18)
 - 19 4 都市テレビ会議「草の根 NPO の挑戦:
シアトル発日本着 まちづくりの思想」

修学旅行・パソコン教室担当 重村智美さんの自己紹介

今年7月下旬から緊急雇用対策事業により神戸まちづくり研究所へ雇用となりました。

以前は IT 講習のインストラクターや、ごくごく普通の事務などをしながら最近まで何とか生活をしていました。今回、神戸まちづくり研究所で仕事をさせて頂くことになり、戸惑いと不安でいっぱいではありますが、持ち前の明るさで何とか乗り切っていきたいと思っています。趣味は映画鑑賞、旅行なのですが最近は何処へも行けず、少々ストレスたまっております。好奇心が旺盛で、知らない所や行ったことのない所、知らないことなどには大変興味を持つちょっと変な性格です。そのためか失敗も多々ありますが、仕事は興味本位ではなく落ち着いてやらねばと思っていますが・・・。

パソコン教室の運営状況は今の所、あまり芳しくありません。セミナーも始めましたが生徒さんはなかなか集ってくれません。採算のとれる運営ということがこんなに難しいことかと痛感しています。修

学旅行の体験プログラムも担当していますが、何もかもが初めての経験なので、どのように段取りをすればよいか、どう話を進めればよいのか、などなど全く手探り状態で、今の所、指示通りに動くことで精一杯の状況です。(余裕がありません)

進捗としては、一応、行政機関とまちづくり機関には理解と協力を頂けそうです。

10 月から人と防災未来センターのオプションとして、試験的に「震災体験現地交流プログラム」が始まりました。現地との事前の連絡や人・防との打ち合わせなどやってみるとなかなかうまくいかないことが多々あります。毎週金曜日に実施のプログラムです。これは、私にとっても大変勉強になる企画であり、いろいろな街を歩いていろいろな風景を目にできるという私の好きな企画でもあります。どうか、みなさんのご協力もお願いします。

重村智美<tomomi-s@mtb.biglobe.ne.jp>

地域活動推進講座 2002 のお知らせ

『まちづくりと新しいツーリズム』

目 的：こうべあいウォークや修学旅行受入れ等の事業を通じて、外部の人々が受入れが、地域の被災者を元気づけることがわかった。今始まっている新しいツーリズムを学ぶことで、まちづくりの活性化の新しい手法を考えたい。

第1回：テーマ：修学旅行プロジェクトとまちづくり

日 時：2002年9月27日(金)18:30～20:30
会 場：プラザ5
内 容：毎年数多くの修学旅行を受入れた経験から、生徒達の得たもの、地域住民の得たもの、その後の交流について語ってもらう。
講 師：田中保三氏(兵庫商会)

[↑実施済:21名参加]

第2回：テーマ：シアトルまちづくりとツーリズム

日 時：2002年10月25日(金)18:30～20:30
会 場：ひょうごボランティアプラザ
内 容：シアトルにおける NPO 活動の紹介とシアトルまちづくり NPO のツーリズムへの取り組み。
講 師：ハイジ・ブリーズ氏(シアトル NPO)

第3回：テーマ：被災地をめぐる新しいツーリズムの展開

日 時：2002年11月15日(金)18:30～20:30
会 場：ひょうごボランティアプラザ
内 容：新しく出来た「人と防災未来センター」との連携の可能性も含め、テーマ型ツアーのあり方と地元との連携を考える。
講 師：森栗茂一氏(大阪外国語大学)

第4回：テーマ：ヨーロッパ 持続可能な観光

日 時：2002年12月20日(金)18:30～20:30
会 場：ひょうごボランティアプラザ
内 容：ヨーロッパではさかんな環境をテーマにしたエコ・ツーリズムについて専門家であるカロリン・フंकさんに持続可能な観光について語ってもらう。
講 師：カロリン・フंक氏(広島大学)

第5回：テーマ：オルタナティブ・ツアーの展開

日 時：2003年1月10日(金)18:30～20:30
会 場：ひょうごボランティアプラザ
内 容：長年、観光地めぐりではないテーマ型のツアー企画を推進してきた専門家に、今後の展望を語ってもらう。
講 師：山田和生氏(マイチケット)

第6回：総括：まちづくりと新しいツーリズム大討論会

日 時：2003年1月24日(金)18:30～20:30
会 場：コムスタこうべ
内 容：5回にわたった各テーマを総合し、まちづくりと新しいツーリズムの連携について全講師を交え討論をする。
講 師：山田和生氏(マイチケット)

『とことん知ろうまちづくり・2002』

目 的：3地区のまちづくりの事例をまち歩きと地域の活動家による講演により立体的に把握してもらう。専門家の解説だけでなく、地域住民の生の発言を聞き議論する。

第1回：テーマ：歩いて知ろう 宮本・吾妻地区

日 時：2002年9月14日(土) 10:00～12:00
集 合：コムスタこうべ(中央区吾妻通 4-1-6)
内 容：密集住宅市街地の更新の実情を説明。その上で地域を歩いて実情を見る。
講 師：辻信一氏(環境緑地設計研究所)
[↑実施済:25名参加]

第2回：テーマ：担い手に聞く 宮本・吾妻地区まちづくり

日 時：2002年9月17日(火) 18:30～20:30
会 場：コムスタこうべ(中央区吾妻通 4-1-6)
内 容：地域内にある10以上の市場・商店街の連携の難しさと将来の展望について。
講 師：門田則秋氏(人・つなぐ旧西国街道まちづくりを考える会)
[↑実施済:8名参加]

第3回：テーマ：歩いて知ろう 甲南地区

日 時：2002年10月26日(土) 10:00～12:00
集 合：甲南本通会館(東灘区甲南町 3-6-22)
内 容：2つの市場と2つの商店街のあった甲南商店連合会エリアの震災による変化を歩きながらたどる。
講 師：稲地一晃氏(計画工房 INACHI)

第4回：テーマ：担い手に聞く 甲南地区商業の活性化

日 時：2002年10月29日(火) 18:30～20:30
会 場：甲南本通会館(東灘区甲南町 3-6-22)
内 容：若手商店者が中心となった最近の活動について報告を聞く。年長商業者や周辺住宅地との連携課題も討議。
講 師：海崎孝一氏(やる気ネット神戸)

第5回：テーマ：歩いて知ろう 灘中央地区

日 時：2002年12月7日(土) 10:00～12:00
集 合：灘中央自治会館(灘区大内通 5 稗田公園内)
内 容：住宅地と商業地を含む地域を歩き、震災後のまちづくり活動の成果を見て歩く。
講 師：天川雅晴氏(アップルプラン)

第6回：テーマ：担い手に聞く 灘中央まちづくり

日 時：2002年12月9日(月) 18:30～20:30
会 場：灘中央自治会館(灘区大内通5稗田公園内)
内 容：まちづくり協議会の今後について考える。
講 師：上山卓氏(コープラン)

*両講座とも講師・日程について変更することがあります。

お問い合わせください。

参画と協働の政策提言・実践の集団を目指して

室崎 益輝（神戸まちづくり研究所理事長）＜murosaki@kobe-u.ac.jp＞

前任の小森理事長の退任にともなう、はからずも理事長を務めることになった。あまりに突然のことで、適任なのかどうかを熟慮する暇もなく、流れの中で何となく引き受けてしまった。能力も貫禄も時間もないのにと、今更愚痴ってみても始まらない。小森先生に気持ちだけは負けないよう、マイペースの室崎流でともかく努力したいと思う。

さて、復興 10 年の節目まで、2 年と数カ月を残すだけとなった。復興の総仕上げの段階に差しかった、といえよう。総仕上げの段階では、復興を事実に基づいて検証し、復興の中で芽生えた先進的な取り組みを、21 世紀の文化として開花させ継承をはかることが要求される。先進的な取り組みというと、コレクティブハウジングやコミュニティビジネスさらには被災者復興支援会議など、わが「神戸まちづくり研究所」のメンバーが貢献したものが少なくない。そもそも、まちづくり研究所も復興塾も復興の取り組みの産物であり、ユニークな先進事例だといえることができる。

震災復興の中では、新しい社会システムとの形成の必要性和その中での中間支援組織の役割が確認された。中間支援組織の中には、市民サイドに立って政策提言をはかる専門的コーディネート組織が欠かせないが、その重責を私たちがこなすことが出来ればと思っている。内向きの復興塾の中で、自由闊達

な議論を展開して政策内容の検討をはかり、外向きのまちづくり研究所で、市民との交流と情報共有をはかって政策内容の実現をはかる。裏表の二枚看板を活用した、理論と実践の両刀遣いの活動が展開できればと、小さな夢を膨らませている。

そのためには、両刀を使いまわす場をしっかりと築くことで、復興塾での勉強会とまちづくり研究所でのフォーラムを、意識的に追求してみたいと考えている。無論、実戦的取り組みとしての、修学旅行事業などの様々な実験的プロジェクトを成功させることは、頭でっかち議論倒れの集団に陥らないためにも、欠かせない。理論と実戦を同時に追求する姿勢は、二枚看板あるいは二刀流の集団としての、原点だと思っている。

二刀流ということでは、一方で大きく国際レベルで活躍し、他方で小まめに地域に密着するスタイルも、神戸まちづくり研究所のスタイルとして定着させたい。この点では、諸外国のまちづくり支援組織との交流を、計画的に進めていく必要があるだろう。ともかく、夢はつきないが、それを実現する責任の一端が理事長にあることだけは確かである。とはいえ、まあ一人でやることではないからと、メンバーの支援を最初からあてこんでいる次第である。ともかく、参画と協働の実践を神戸まちづくり研究所の運営から、である。

＜自主投稿＞ アイウォークの灯火

森栗茂一＜morikuri@maia.eonet.ne.jp＞

秋になると、アイウォークの古傷がうずく。どうしようかと金もないのに悩む。

- 1)復興クルーズ 2003 の燕京号での唐山被災児童招待ツアーに、万里の長城アイウォークを込めて、450 人参加で 450 万円集めるかとも思う。しかし、それも安易すぎるという気もする。

ならば

- 2) 西宮や甲南で、学生にそうしたウォークをすることを呼びかけ、そのノウハウ伝授の講習会をし、それぞれにやってもらうか？
しかし、その費用はどうするか。のってくる学生がいるかが問題。県は民間のミミックを拡大させることに腐心しているだろうし、こうした動きと連動する気はないだろう。やはり、県には死ぬ（財政破綻）までやってもらうか……。しかし、県民として、そんな税金の使い方は納得できないな。

特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所・神戸復興塾

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 4 丁目 1 番 6 号 TEL : 078-230-8511 FAX : 078-230-8512
E-mail = LET07723@nifty.ne.jp Homepage = <http://www.netkobe.gr.jp/machiken/>